

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	木村 展之
所属機関名	獣医学部 獣医保健看護学科
職位	教授
在籍年	3.5 年

教育の責任

- 1) 獣医学科と獣医保健看護学科の1年生を対象に、動物生命倫理の実践的学問である「動物福祉」の授業を担当している（獣医保健看護学科においては、「生命倫理」も担当している）。動物福祉は既にワールドスタンダードな概念となっており、獣医師国家試験、ならびに愛玩動物看護師国家試験の対象科目となっている。しかしながら、日本では動物福祉に関する正確な理解がまだまだ広がっておらず、動物愛護と動物福祉を混同しているケースも少なくない。このため、獣医学部の学生が動物福祉を正しく理解して実践するための教育指導を行っている。
- 2) 自身が所属する獣医保健看護学科においては、「動物病理学」と「バイオセーフティー学」、「実験動物学」といったライフサイエンス分野の科目を担当している。このうち、「動物病理学」は愛玩動物看護師国家試験の対象科目であり、実地試験にも対応できるよう指導を行っている。
- 3) 獣医学科と獣医保健看護学科の学生を対象に、基盤科目である「自然を読みとく」と「初修外国語（スペイン語）」の授業を担当している。「自然を読みとく」では自然科学分野の研究における最新のトピックや研究倫理などについてわかりやすく解説を行い、「初修外国語（スペイン語）」では自身の経験を活かして実践的なスペイン語の指導を行っている。

教育の理念

- 1) 生命倫理と動物福祉は、動物の命に関わる仕事に就くことが予想される獣医学部学生にとって最も重要かつ根本をなす学問と言える。倫理学には絶対的な正解が存在しないからこそ、より良いベターを求めて考え続ける姿勢を身につけることが求められる。
- 2) 大学は学問をする場所であり、学問とは自ら設定した問いの答えを探し求める行為である。このため、全ての担当科目を対象に学生たちが学習内容に興味を持ち、自ら学習意欲を高めてくれるように導く教育が必要である。
- 3) 現代社会においては、専門性の高い情報であっても一般の方にわかりやすく伝えることが求められており、そのためには自分の考えを明確に伝えるとともに、自らの言葉に責任を持つ覚悟を学生1人1人に身につけさせる必要がある。

教育の方法・方針

- 1) 倫理学には絶対的な正解が無いことを伝え、毎回の講義終了後にレポート課題を設定し、より良いベターな世界の実現に必要な要素について熟考させる。そして全ての学生を対象にレポート課題のフィードバックを行い、論理的な文章の書き方などを指導するとともに、動物の命に関わる専門職として適切な倫理観を醸成できるよう導く。また、獣医師国家試験、および愛玩動物看護師国家試験対策として、国家試験を想定した期末試験を課している。
- 2) 単に教科書の内容をそのまま解説するだけではなく、分かりやすい例えや時にはジョークを挟みながら、学生が飽きずに最後まで集中力を保ちつつ楽しめるような講義を行う。

3) 上述したレポート課題を活用するとともに、研究室活動においては毎週1回ミーティングを行って研究活動の進捗状況や最新論文の内容を学生に発表させ、プレゼンテーション能力を磨かせる。

教育の成果

各担当授業のアンケートでは毎回90%以上の学生が講義内容に満足していると回答しており、「授業が分かりやすい」との高評価を得ている。また、2024年度の今治キャンパス学園祭で行われた人気教師投票では1位を獲得したが、1位に選ばれた理由として「講義のわかりやすさ」や「講義への情熱」の他、「レポート課題に対するフィードバックが手厚い」といった教育姿勢に対する好意的な意見が記載されていた。

今後の目標

現在担当している科目のうち、「動物病理学」は愛玩動物看護師国家試験の対象科目であるが、苦手とする学生が多い科目の1つでもある。毎年、国家試験を控えた4年生が復習目的で講義に参加できるよう取り計らっているが（注：「動物病理学」は獣医保健看護学科2年生が対象）、今後は必要に応じて補講なども行い、国家試験合格率の更なる向上に貢献したい。

根拠資料

毎年の授業アンケートをご参照ください。